ふるさと研究ニュース

2022年 春号 第24号
文化財保護課
ふるさと研究グループ

ところざわの民俗資料館をご紹介します。（入館料無料）

中富民俗資料館

＊三富開拓の歴史を物語る農具や民具を中心に、多数の収蔵品を展示しています。

開館日　第１土曜日、第２・４金曜日、第３日曜日

開館時間　午前９時～午後４時30分

所在地　所沢市中富1548-1　☏04-2942-4843（開館日のみ）

安松ざる

柳瀬民俗資料館

＊旧柳瀬村関係の資料や、村役場の復元模型、オート三輪車など、珍しい資料があります。

開館日　第１・３金曜日、第２土曜日、第４日曜日

開館時間　午前９時～午後４時30分

所在地　所沢市亀ケ谷279-3　☏04-2944-9696（開館日のみ）

オート三輪

山口民俗資料館

＊織物器具を中心に、山口地区の農具や民具を展示しています。

開館日　第１日曜日、第２・４木曜日、第３土曜日

開館時間　午前９時～午後４時30分

所在地　所沢市山口1529-10　☏04-2922-2004（開館日のみ）

ハタシ（高機）

ふるさと研究 自然だより －野鳥の声－

シジュウカラの幼鳥

エナガ

春から初夏にかけて、航空公園では、いろいろな鳥たちが訪れ、さえずり合い、パートナーを見つけ営巣の準備をする姿や、巣立った幼鳥たちの姿が、順次見受けられます。例えば、「シジュウカラ」は、木のてっぺん近くに止まり、「ツッピーツッピー」と声高らかに鳴き、その存在を主張します。そして、初夏を迎えるころになると「ジージー」と鳴く鳥の声を聴くことがありますが、その主を見ると、黄色いくちばしの幼鳥だったりします。さらに耳を澄ますと、「ツッピー」「ジージー」の合間に「ジュリジュリリ」という声が混じっていることがあります。シジュウカラより少し小さく尾が長く、枝から枝に素早く動くので、その姿とらえるのはやや難しい鳥ですが、この声の主は、「エナガ」です。よく、シジュウカラと混群で、移動していることがあります。混群の仲間には、「ギィーギィー」と鳴く「コゲラ」や「チーチュルチー チュルル」と鳴く「メジロ」などもいることがあります。

幼鳥に餌を与えるコゲラ

メジロ

昨年秋に開催した、ふるさと研究講座「ふるさとの音をたずねて」で、「野鳥の音」を担当していただいた講師によると、千葉の方では鶯が「ホーホケチョ」と鳴くそうです。子どもは大人の鳴き声を聞いて覚えるので、周りの鳥がそう鳴いていると、そのまま覚えてしまうからだそうです。

また、ヒヨドリかと思ったらモズの鳴きまねで、少し騙されかけたとのお話もありました。鳴き真似上手は、研究者の耳をも惑わすことがあるようです。

さて、今聞こえた鳥の声は、さえずりなのか地鳴きなのか、幼鳥の鳴き声なのか、はたまた鳴き真似鳥のものなのか。公園をゆっくり歩きながら、時には足を止めて、鳥の声を楽しんでみてはいかがですか。

（**地鳴き**…日常的な鳴き声。短く単純な声。 **さえずり**…遠くまで届く声。繁殖期などに出す美しい鳴き声。）

国登録有形文化財

「旭橋」の昔の写真を探しています！

旭橋は、日本最初の飛行場である所沢飛行場の開設(明治44年)にともない、所沢駅から飛行場へつながる道(飛行機新道)が整備された際に、東川を渡るために架けられました。昭和5年、土橋から、空都・所沢にふさわしいモダンなデザインの現在の橋に架け替えられました。欄干はリズミカルな白タイル貼りの連続アーチで、両端の親柱には、かつてブロンズ製で唐草模様をあしらった六角形の電燈が設置されていたと伝わりますが、戦時中の金属供出で失われ、現在は台座だけが残されています。

現在の旭橋

文化財保護課では、電燈があったころの、旭橋の写真を探しています。
戦前の旭橋の写真をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡をお願いします。
写真はお借りして、複写した後、お返しします。

平賀源内が所沢に来た！？

〈ふるさと研究市民トピックvol.24〉

平賀源内(1728-1779 /江戸時代中期の本草・物産学者・戯作者)は、歴史の教科書などで「エレキテル」の制作者などとして知られていますが、埼玉県にも関係が深く、秩父を何度も訪れ、滞在もしています。

源内は、明和元年(1764)、武蔵国児玉郡猪俣村(美里町)の名主中島利兵衛の協力を得て、秩父の山にのぼり、石綿を発見、火浣布(かかんぷ/耐火織物)を作り幕府に献上しています。そのほか、秩父郡中津川村(現秩父市)の幸島家に仮寓し、事業は成功には至らなかったようですが、鉱山採掘、荒川通船、製炭事業などを行ったといわれています。

その秩父との往来や荷物の運搬に、所沢を経由する道を利用していたかと思われる書簡があります。

「 二白　金子貳分進申候駄賃御拂被降猶其地ゟ(より)江戸迄駄賃ハ 此者へ御渡被遣委御申含可被降候尤贄川迄出居申候ハ 、二駄取寄候而も駄賃二分ニ而可有奉存候若いまた中津ニ御座候ハ 、二分ニ而ハ 不足ニ奉存候然時ハ 所澤ゟ(より)之駄賃江戸迄拂候様此者へ 御申付可被下候何卒二駄被遣可被下候萬一何ぞ差支御座候ハ 、壹駄ニ而も宜御座候其内成だけハ 二駄被遣被下候様呉々奉頼候　以上　源内

廿日　　三郎兵衛様　要藏様

なほなほ飛脚之者道中遣ハ 別ニ遣候此段御心得萬々宜御指圖可被下候何卒一時も早く参候様奉頼候」

（小倉右一郎氏藏書翰　*1）

【解　説】

この書状は、源内が秩父郡久那村(現秩父市)の岩田家に宛てて出した手紙です。内容を読むと、どうも二駄(一駄は馬一頭分)の荷物の輸送費について書かれているようです。「飛脚に送り賃(駄賃)を持たせ、二分の代金を支払っている。ただ、中津より手前の贄川から運んでもらえば二分で済むが、中津からだと駄賃が不足するかもしれない、その場合は、所沢から先の江戸までの駄賃は飛脚に支払わせて構わない」といった内容のようです。　(※飛脚…信書や金銭、小荷物などを輸送する職、その職に従事する人)

また余談ですが、福内鬼外という筆名で源内が書いた浄瑠璃『矢口後日 荒霊新田神徳』の「第九 山口観音乃段」にも所沢が出てきます。(*2)

〈参考資料〉*1…『平賀源内全集』上巻 平賀源内/著(平賀源内先生顯彰會/編著) 名著刊行会 1970 年
*2…『平賀源内全集』下巻 平賀源内/著(平賀源内先生顯彰會/編著) 名著刊行会 1970 年
(上記の資料は、所沢図書館で所蔵しています)

所沢市教育委員会 文化財保護課 ふるさと研究グループ
所沢市並木６丁目４－１ Tel:04-2991-0308　Fax:04-2991-0309　Mail:b29910308@city.tokorozawa.lg.jp